

基本構想検討シート

テーマ：地球環境にやさしいまち　～環境負荷低減の推進～

10年前の書きぶり（4次長計）		
構想レベルの課題	構想レベルの方針	方針に基づく基本事業（参考）
① 循環型社会の推進や、恵み豊かな環境を守りはぐくむことを通じ、地球環境にやさしいまちをめざします。	・環境に与える負荷を低減し、環境にやさしい地域社会を築くため、市民、事業者、行政がそれぞれの責務を明確にしたうえで、三者一体となった資源循環のシステム構築を推進します。	□総合的環境施策の推進 ・市内環境の定期的な調査、環境への影響の大きい事業者への適切な指導 ・市民の環境問題に関する知識や意識の醸成 ・生き物の生育する環境を守り、多様な生き物を保護 ・市民の良好な生活環境の維持 ・環境に対する市民や事業者の活動の推進 □資源循環型社会の推進 ・ごみの排出抑制、減量化、資源化の推進 ・ごみ減量化の仕組みづくりの推進 ・家庭ごみ有料化

このテーマについて現状の課題などを書き出してみると・・・

5次長計	
以下、「施策の評価・検証」、「基礎調査データ」、「市民・団体アンケート」より課題などを抜粋しています。	今の課題、方向性に対するキーワードは
・快適な生活環境のためには、さまざまな環境問題に対し、定期的な調査を行い、関連機関との連携・協力のもと適切な対応が求められている。 ・身近な生活環境対策の推進や環境についてさまざまなことを学ぶことができる機会を充実することにより、市民等の環境問題への理解を高めていくことが求められている。 ・地球温暖化問題は年々深刻さを増し、国際的な協調のもとに喫緊に対策を講じる必要がある。主な原因とされている温室効果ガスを減らすためには、市役所内はもとより、広く市民や事業者へ普及・啓発する必要がある。 ・資源循環型社会を推進していくためには、資源の有効活用、省エネルギー、ごみの減量化、廃棄物の適正処理などの推進が求められている。 ・最近の一世帯当たりのごみの総排出量は、やや減少傾向で推移しているが、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進により、一層の排出規制と循環型システム構築に向けたさらなる取り組みが求められている。 ・家庭ごみ有料化によるごみ減量化だけでなく、今後も、今までごみとして排出されていたものを資源化するために、ごみの減量化・資源化に向けた取り組みを継続することにより、市民、事業者、行政がそれぞれ主体となって、分別排出への意識改革を図っていく必要がある。 ・温室効果ガス排出量の推移は、増減を繰り返し、平成 25 年以降は減少傾向にあるものの、基準年（京都議定書の規定による基準年（平成 2 年））の数値を上回っている。 ・部門別二酸化炭素排出量は、民生部門（58.7%）、次いで産業部門（24.6%）の割合が高い。平成 6 年以降の推移をみると、運輸部門では減少傾向にあるのに対し、他の部門は増減を繰り返している。 ・住民一人一日当たりのごみの量は、多摩 26 市中 15 番目に少ない。 ・一世帯当たりのごみの排出量は、平成 19 年度以降の推移をみると、減少傾向にある。 ・収集されるごみの中で最も割合が高いのは「燃やせるごみ」（66.6%）で、次いで「資源物」（17.9%）となっている。 ・資源回収を行っている紙類は、平成 19 年度以降、減少傾向にある。 ・ ・14.9%の市民が市の目指すべきまちの姿として「ごみの減量やリサイクルを積極的に推進する、環境に優しいまち」と答えた。 ・本施策に市民の 26.6%が満足、34.1%が満足していない。 ・本施策を市民の 78.7%が重要と考えている。 ・市民が考える優先すべき取組みとして、「ごみ減量化・資源化の仕組みづくり」、「良好な生活環境の維持」、「ごみ減量化・資源化の取組の効果検証」の順で高くなっている。	ご意見を準備していただくためのメモ欄です ■総合的環境施策の推進では、 ■資源循環型社会の推進では、 ■このテーマに欠けている視点は、